

公益社団法人 日本技術士会 長野県支部
東信CPD講演会『音声認識システムを活用した聴覚障害学生支援の取り組み』の報告

日時：平成30年11月17日（土）13：00～15：00
会場：長野大学 4-302教室
参加者：会員19名、一般2名、講師1名 合計22名

2回目となる長野大学共催による講演会は上記テーマで、社会福祉学部教授 伊藤英一先生にご講演を頂いた。高橋幹事（長野大学企業情報学部教授）からは、長野大学の障害学生支援制度の紹介がなされ、開学時からの障害のある学生に対する教員や学生の個別配慮による支援、1999年からの障害学生支援室の発足等、大学の組織的なサポート体制の構築について、紹介がありました。

また、障害学生は全学生の2～3%の割合を占め、全国の大学の中でもトップレベルとのことでした。

講演は、伊藤先生の話される言葉が、瞬時にスクリーン上で、文章化され（訂正を入れないと同音異義語の誤変換等が生じます）、研究内容とその効用を目の前で体感できました。

長野大学では、ノートテイク（要約筆記）と音声認識システム UD（ユニバーサルデザイン）トークによる授業での情報保障を行っているとのことでした。

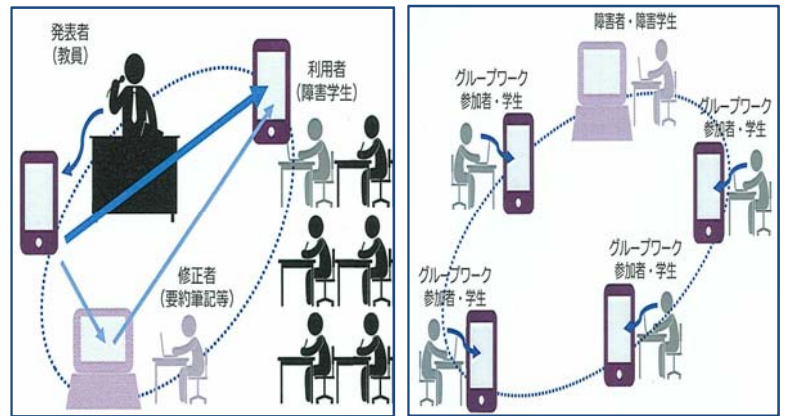
音声認識システムは、▶聴覚障害、視覚優位の発達障害学生等に対する授業での情報保障手段としての活用を目的とする利用、▶マイク音声を認識させることによる会議議事録作成の



〈高橋幹事による長野大学の紹介〉



〈伊藤先生によるご講演〉



〈授業・ゼミ・グループワークでのUDトークの利用形態〉



〈質疑応答〉

省力化、▶日本語から多言語への翻訳システムとの併用による機械通訳（翻訳）としての応用等が期待できるとのことでした。

参加者の感想からは、「大切な技術であり、議事録作成、翻訳機能を含め、活用範囲が大きく広がりそう」、「音声認識技術の進歩に驚きました」、「情報弱者を作らないバリアフリー支援策は、災害時の情報弱者対策にも大いに活用できる手段ですね」等の感想が寄せられました。

伊藤、高橋両先生のお話やお人柄を通して、地域に開かれた長野大学の基本姿勢を理解できました。また、紅葉が眩しい学内で充実した快い時間を参加者全員で共有できました。